

式辞に込めた想い
～「個人モデル」から「社会モデル」へ～
地球は笑ってる！！

令和8年3月12日に高等部の生徒、3月17日に小・中学部の児童生徒が卒業の晴れの日を迎えました。毎年、当たり前ですが校長としての最後の言葉に悩みます。ポイントは二つ

・短く

・子ども達が思い浮かべることができる内容

そんなことに注意しながら「式辞」を作っています。高等部では「福笑い」という高橋優さんの曲と岐阜城で見た「おつきさま」にしました。

さて、小・中学部は…。そんなことを考えている時に小学部の児童が卒業式で「ビリーブ」を上手に歌ってくれました。「ビリーブ」と言って思い出すのが式辞で話した。「地球は笑ってる」という言葉。いつだったか？一緒に歌った子どもがそんな風につぶやき、とても素敵なことだと思っていました。ただ、それをただ単に使うだけであれば、校長としての式辞としてはいかななものか？と思います。そこで今回の式辞に込めた想いは「短い」式辞の中では話すことができませんので「校長通信」で紹介させていただきます。

現在、学習指導要領の改訂に伴い様々な議論がされています。その中で「多様性の包摂」という言葉がキーワードになり、「個人モデル」から「社会モデル」への意識の転換が大きなポイントではないか？と個人的には思っております。これまでどおりに式辞を考えて見ると、「中学部に行っても頑張ってください」「高等部では作業にしっかりと取り組んでください」などの言葉が普通は出てくるものと思います。ただ、それは「個人モデル」的な考え方で、子ども達が「頑張る」という視点ではないか？と思います。それを子ども達の「笑顔」を社会全体で守っていく、いつでも「笑顔」でいられるような優しい学校や地域・社会を作っていくという「社会モデル」的な視点に代え、そして、最終的には「人権モデル」にどのように繋げていくか？そんな想いを込めた「地球が笑ってる」という話でした。ただ、もっともっと深く追求をしていくと「笑顔」＝「社会モデル」とはならないかもしれませんが、子ども達の「笑顔があふれる素敵な社会」を作っていくのは社会の側であり、子ども達の努力ではないはず。頑張れ、頑張れから少し視点を離して、子どもが「笑顔」になる社会とは？地域とは？学校とは？という事を卒業生を送り出すタイミングでもう一度大人として考えていかなければならないと思いこの「地球は笑ってる」という言葉を紹介させていただきました。

そんな大真面目で式辞を作成していますので、どうかまた校長は受けだけを狙ったのだ！と思わないで是非「地球は笑ってる」という社会にしていく為にみんなで出来ることに取り組んでいきたいと思えます。

様々なことが起こっている現代で、子どもの「笑顔」で地球を回せるようなそんな世の中にしていけるように、大人として当事者意識をもって取り組んでいきたいと思えます。

ご卒業おめでとうございます。